

世田谷区の現況

第1回世田谷区基本計画審議会資料
「世田谷区の現況資料」より一部抜粋

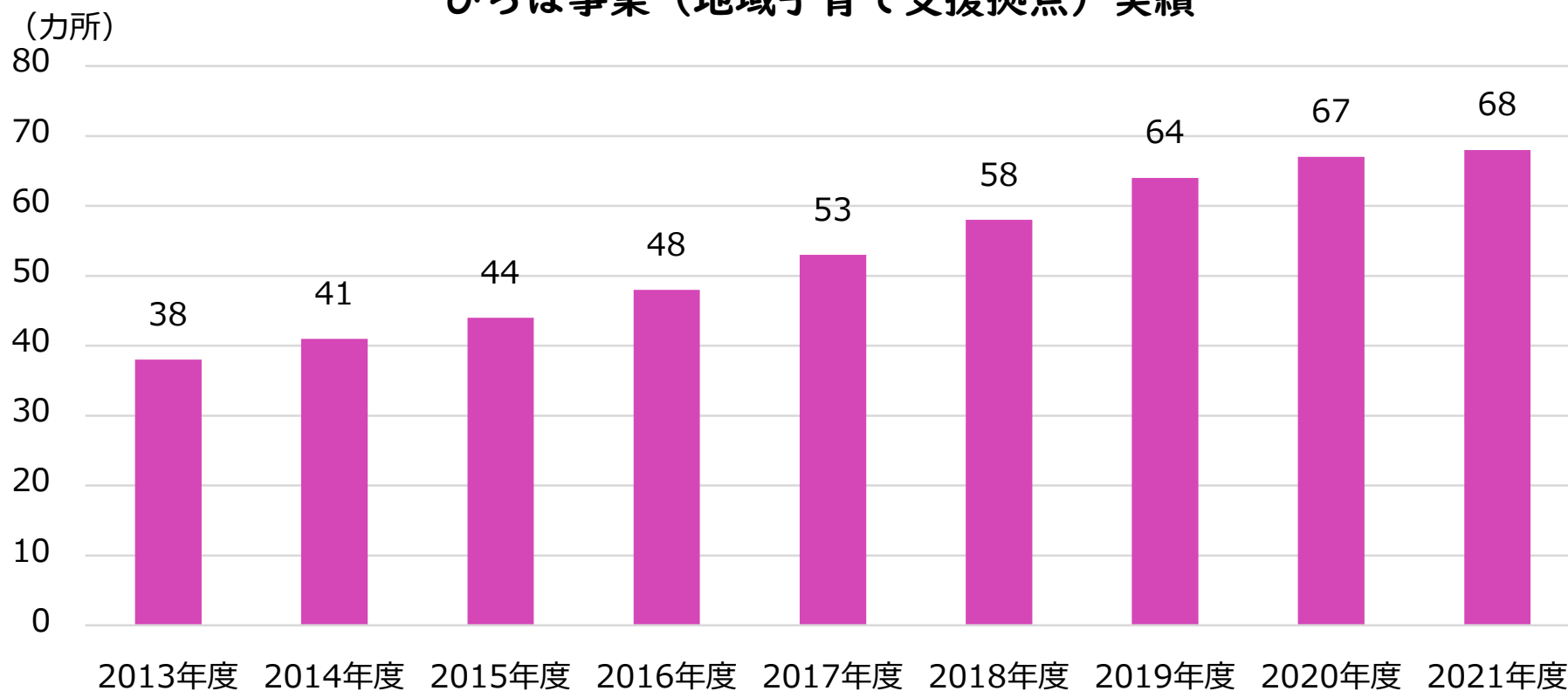
目次

1. 子ども・若者、教育関連データ	2
2. 地域コミュニティ関連データ	6
3. 都市基盤整備・産業・環境関連データ	10

世田谷区の地域子育て支援拠点事業

区のひろば事業（地域子育て支援拠点事業）実績は年々増加しています。2013年度の38カ所から2021年度には68カ所となり、30カ所増加しました。

ひろば事業（地域子育て支援拠点）実績

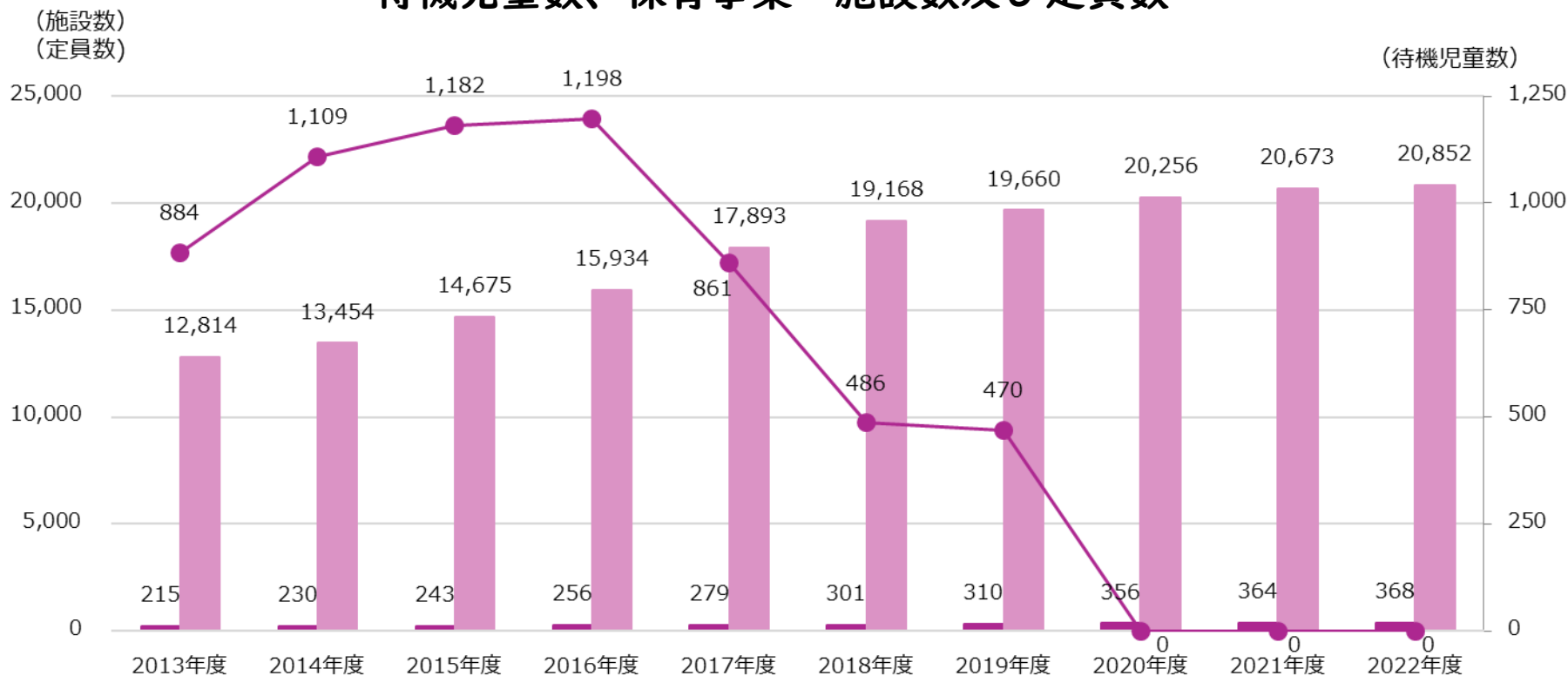


1. 1. 子ども・若者、教育関連データ

世田谷区の保育待機児童数

区の待機児童は、一時1,200人近くまで増加しましたが、施設の増加、定員の拡大に努めて年々減少し、2020年度以降は4月1日時点でゼロの状態が続いています。

待機児童数、保育事業・施設数及び定員数



出典：世田谷区資料

■ 施設数

■ 定員数

● 保育待機児童数

※各年度4月1日時点

※施設数は分園数を含む

※2020年度（子ども計画（第2期）後期計画）より保育総定員数の算出方法を変更

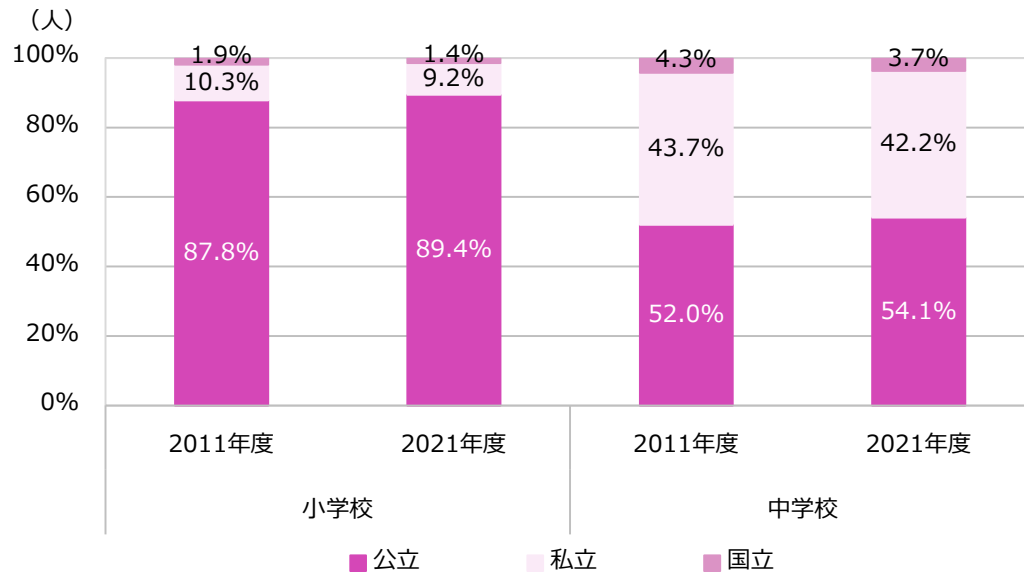
1. 子ども・若者、教育関連データ

世田谷区の学校種別児童・生徒比率、教員数

区の小学生のうち、**89.4%**が公立小学校に在籍しており、中学生についてみると、**54.1%**が公立中学校に在籍しています。

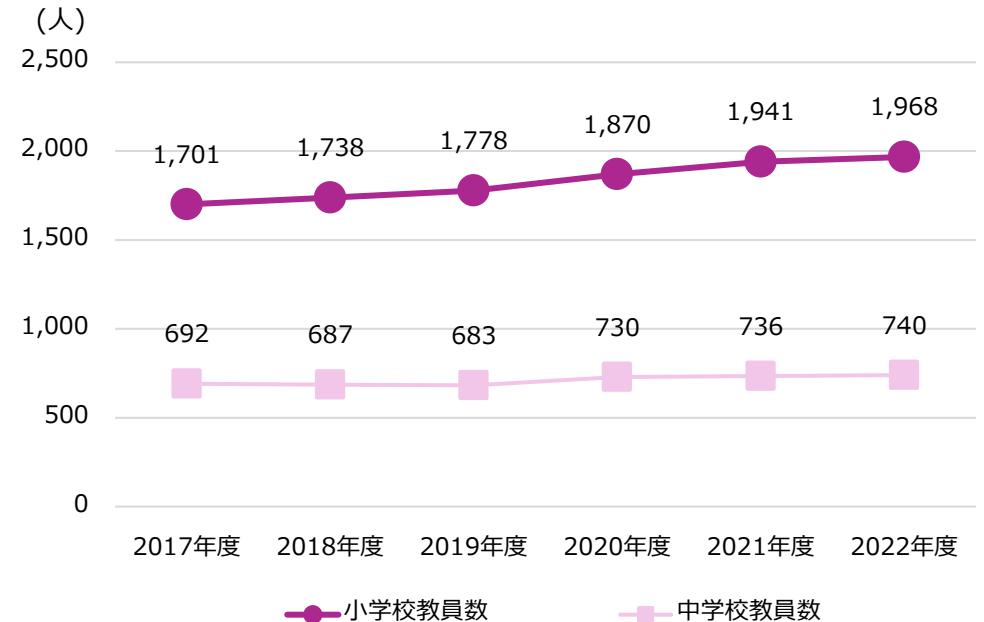
区の小学校教員は1,968人、中学校教員は740人となっており、**教員数は増加傾向にあります。**

学校種別児童・生徒比率



出典：文部科学省「学校基本調査」を基に作成

小学校教員：1,968人 中学校教員：740人



出典：世田谷区資料

※教員数は校長、副校長、主幹教諭、指導教諭、主任教諭、教員の合計

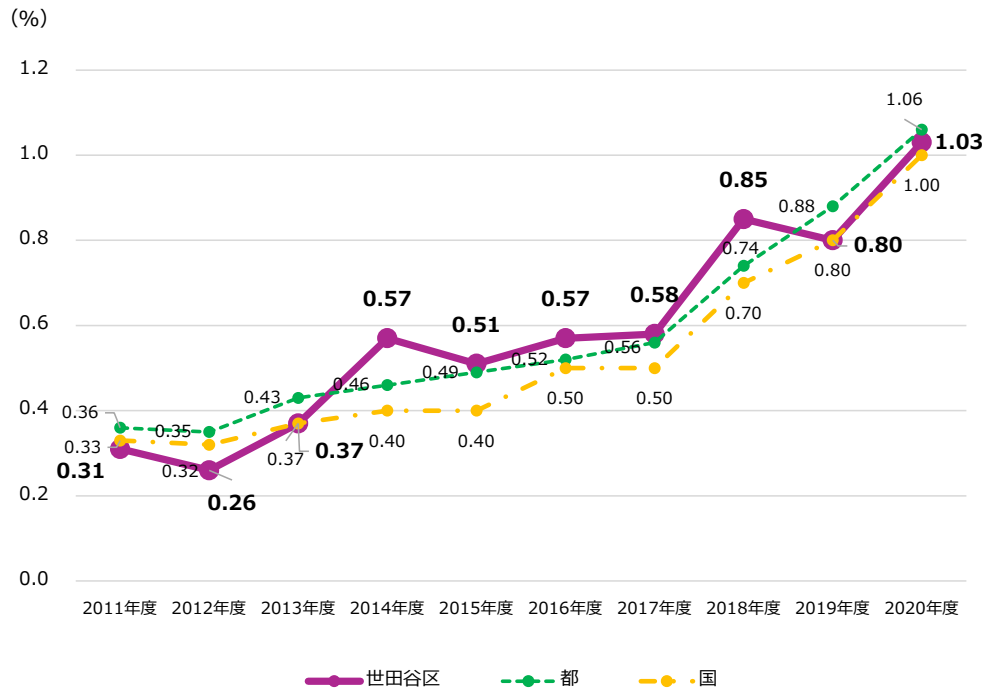
1. 子ども・若者、教育関連データ

世田谷区の不登校児童・生徒の割合

区の小学生のうち、2020年度の不登校児童割合は1.03%であり、2011年度に比べ0.72ポイント上昇しています。

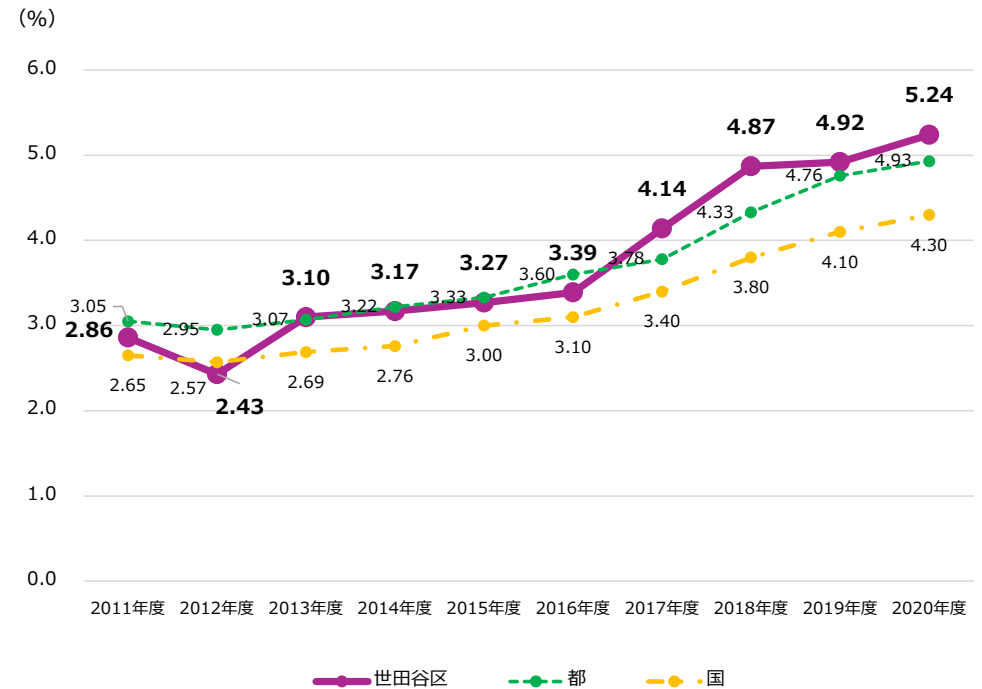
区の中学生のうち、2020年度の不登校生徒割合は5.24%であり、2011年度に比べ2.38ポイント上昇しています。

不登校児童の割合（小学校）



出典：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を基に作成

不登校生徒の割合（中学校）



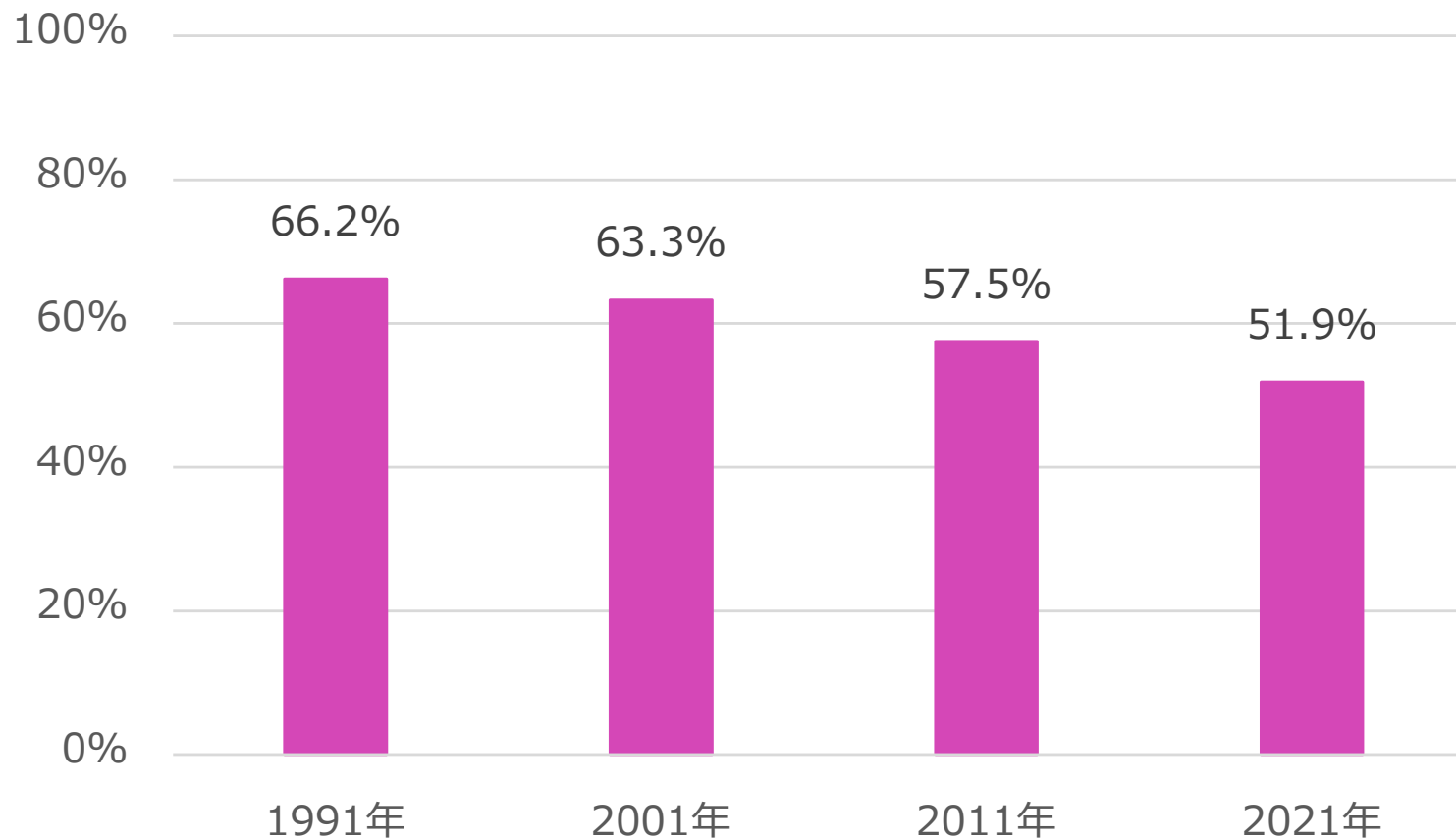
出典：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を基に作成

2. 地域コミュニティ関連データ

世田谷区の町会・自治会加入率

区民の町会・自治会への加入率は1991年以降減少し、2021年には51.9%となっています。

町会・自治会加入率



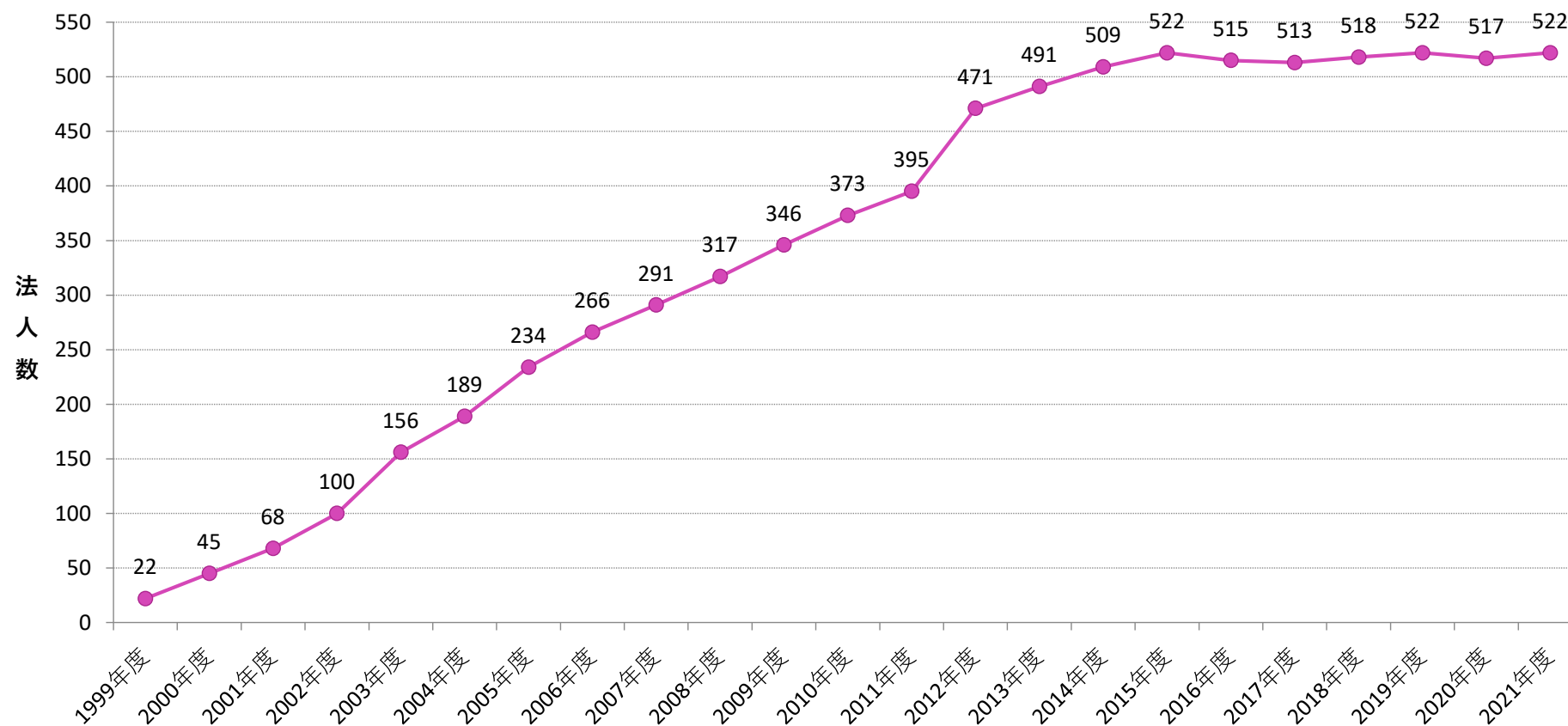
出典：世田谷区資料

2. 地域コミュニティ関連データ

世田谷区のNPO法人数

区のNPO法人数は2015年度末まで増加傾向が続いていましたが、その後現在まで概ね横ばいで推移しています。

NPO法人数（各年度末時点）



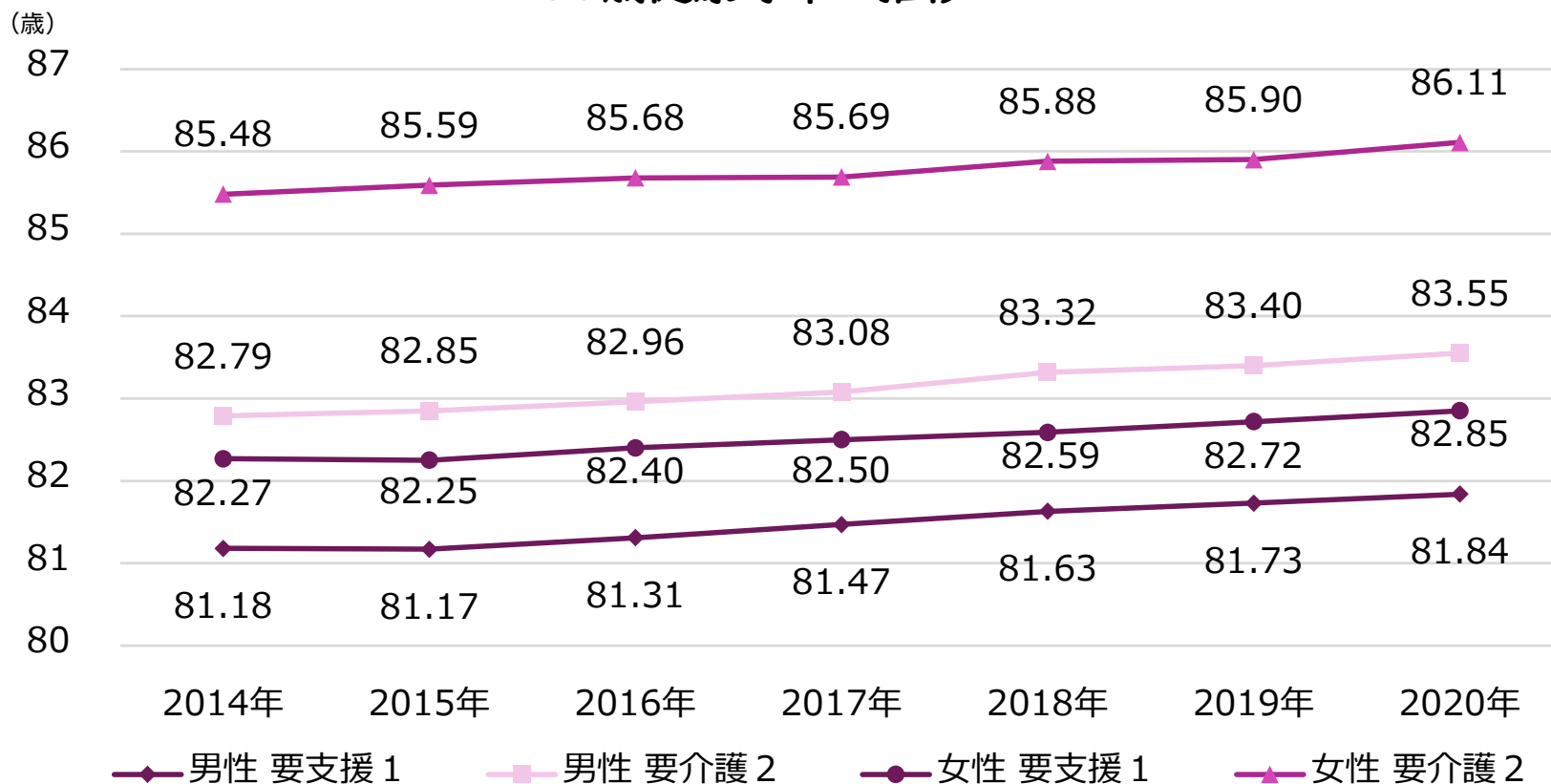
出典：世田谷区資料

2. 地域コミュニティ関連データ

世田谷区の65歳健康寿命

区の65歳健康寿命は上昇傾向にあり、2020年の女性の要介護2が86.11歳、男性の要介護2が83.55歳となっています。また、2020年の女性の要支援1は82.85歳、男性の要支援1は81.84歳となっています。

65歳健康寿命の推移



出典：世田谷区保健福祉総合事業概要

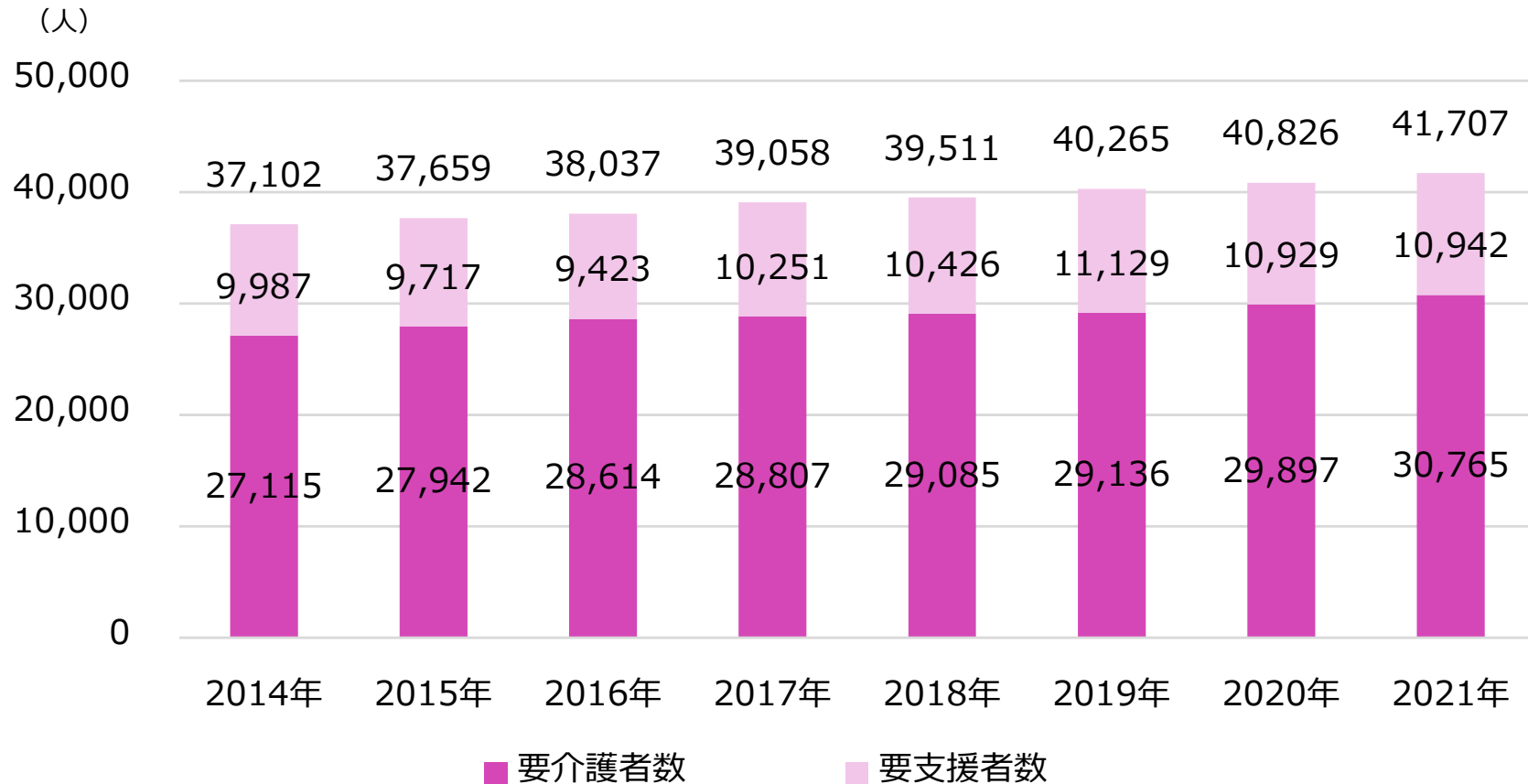
※ 65歳健康寿命（東京保健所長会方式）：65歳の人が、要介護認定を受けるまでの状態を健康と考え、認定を受ける年齢を平均的に表したものの。

2. 地域コミュニティ関連データ

世田谷区の要介護者数・要支援者数

区の要介護・要支援者数はいずれも増加しており、2014年の要介護者数が27,115人、要支援者数が9,987人でしたが、2021年には要介護者数が30,765人(3,650人増)、要支援者数が10,942人(955人増)となっています。

要介護・要支援者数の推移



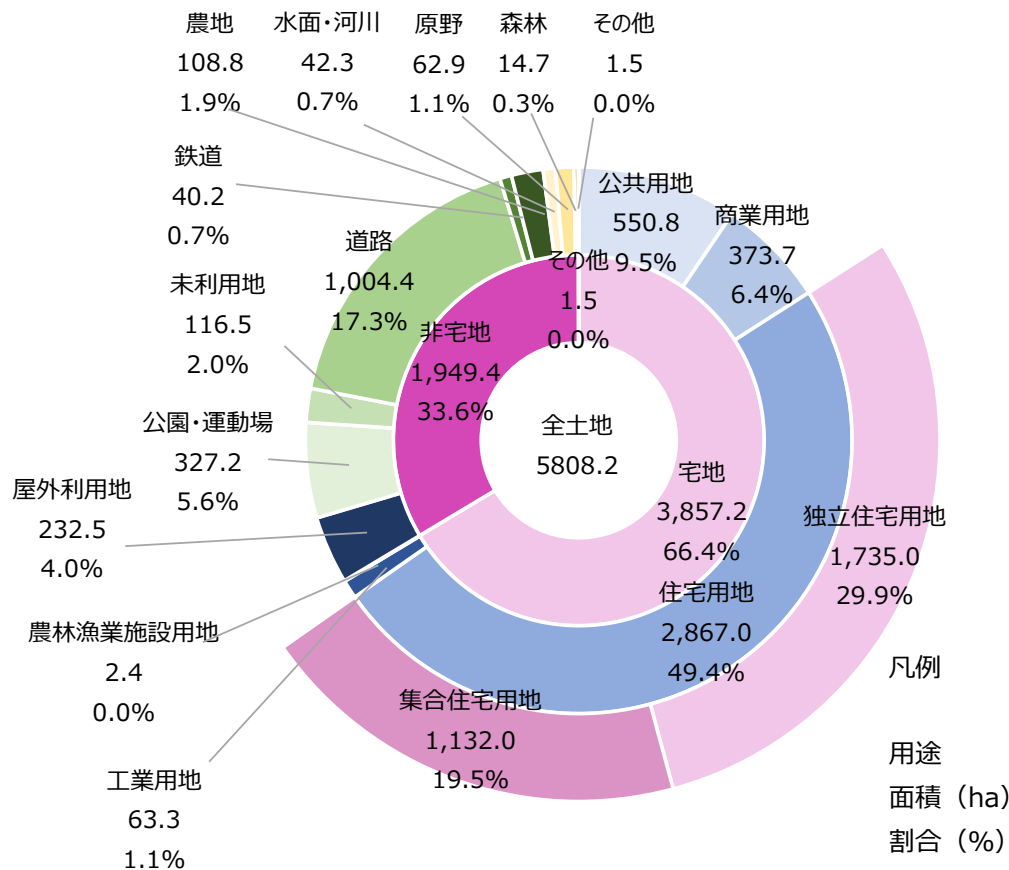
3. 都市基盤整備・産業・環境関連データ

世田谷区の用途別土地利用面積

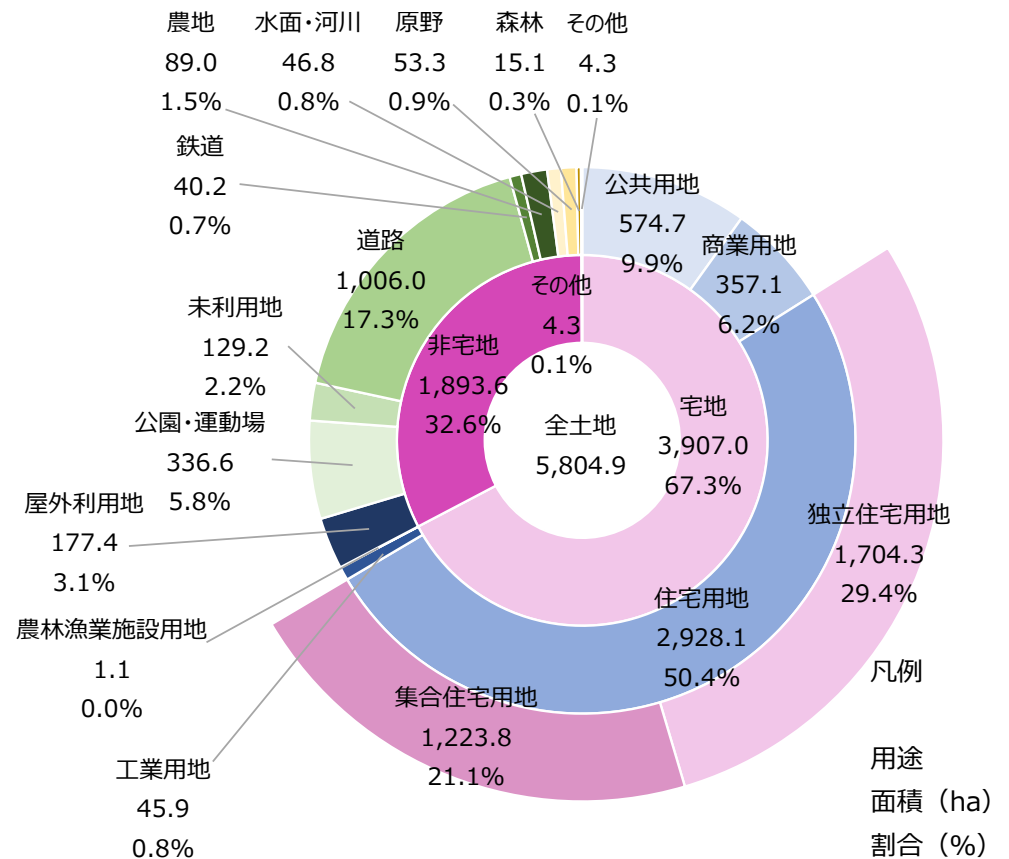
区の用途別土地利用面積では、全土地5,804.9haのうち、住宅用地が2,928.1ha(50.4%)と過半を占めており、住宅用地を含む宅地は2011年度から2021年度にかけて、49.8ha増加しました。

世田谷区の用途別土地利用面積

2011年度



2021年度

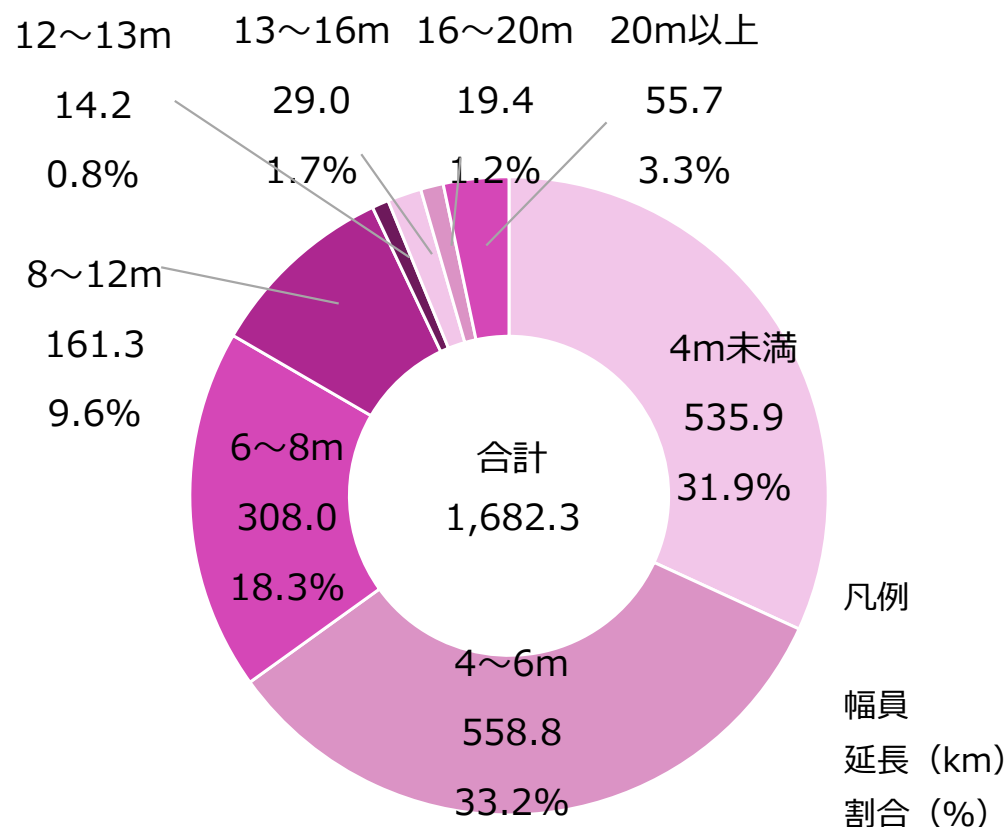


3. 都市基盤整備・産業・環境関連データ

世田谷区の道路幅員別道路延長

区の道路幅員別道路延長では、「4～6m」の道路の割合が33.2%と最も高く、次いで「4m未満」が31.9%となり、あわせて全体の約65%を占めています。

道路幅員別道路延長(2021年度)

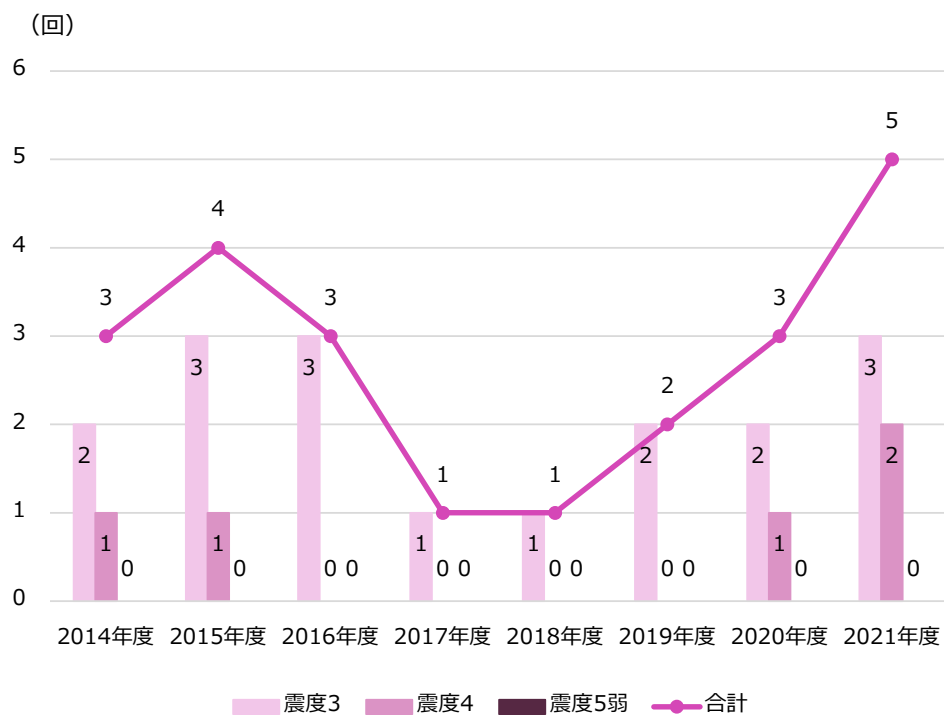


3. 都市基盤整備・産業・環境関連データ

世田谷区地震発生件数、耐震化率

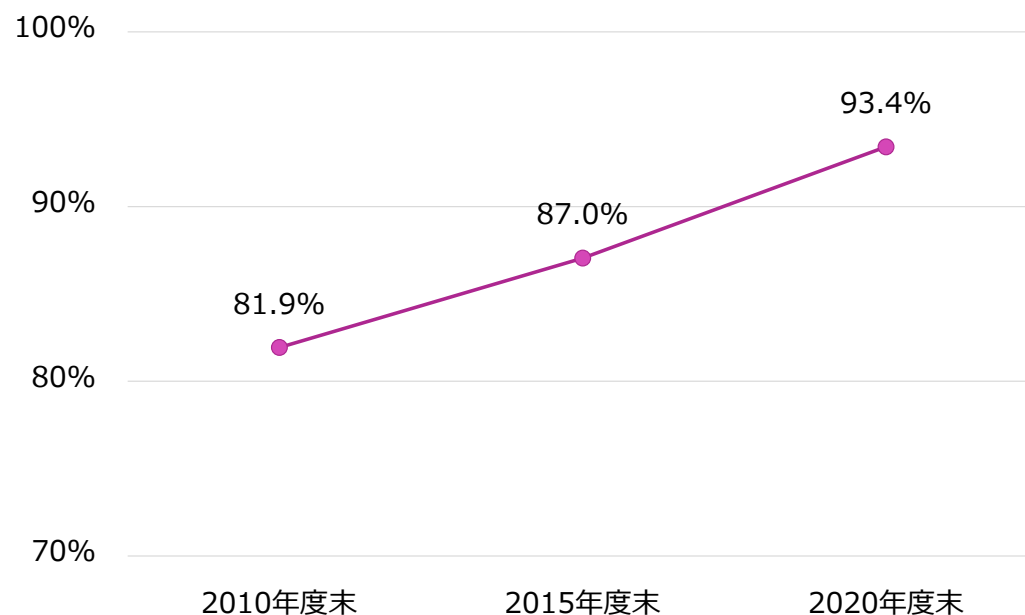
区で2021年度に発生した震度3以上の地震は5件であり、2014年度以降、震度5弱以上の地震は発生していません。また、住宅総数に対し耐震性を満たす住宅の割合を示す耐震化率は、2020年度末時点で93.4%と見込まれており、2010年度末時点から11.5ポイント上昇しています。

震度3以上の地震の推移



出典：気象庁「震度データベース検索」を基に作成

住宅の耐震化率（推計値）



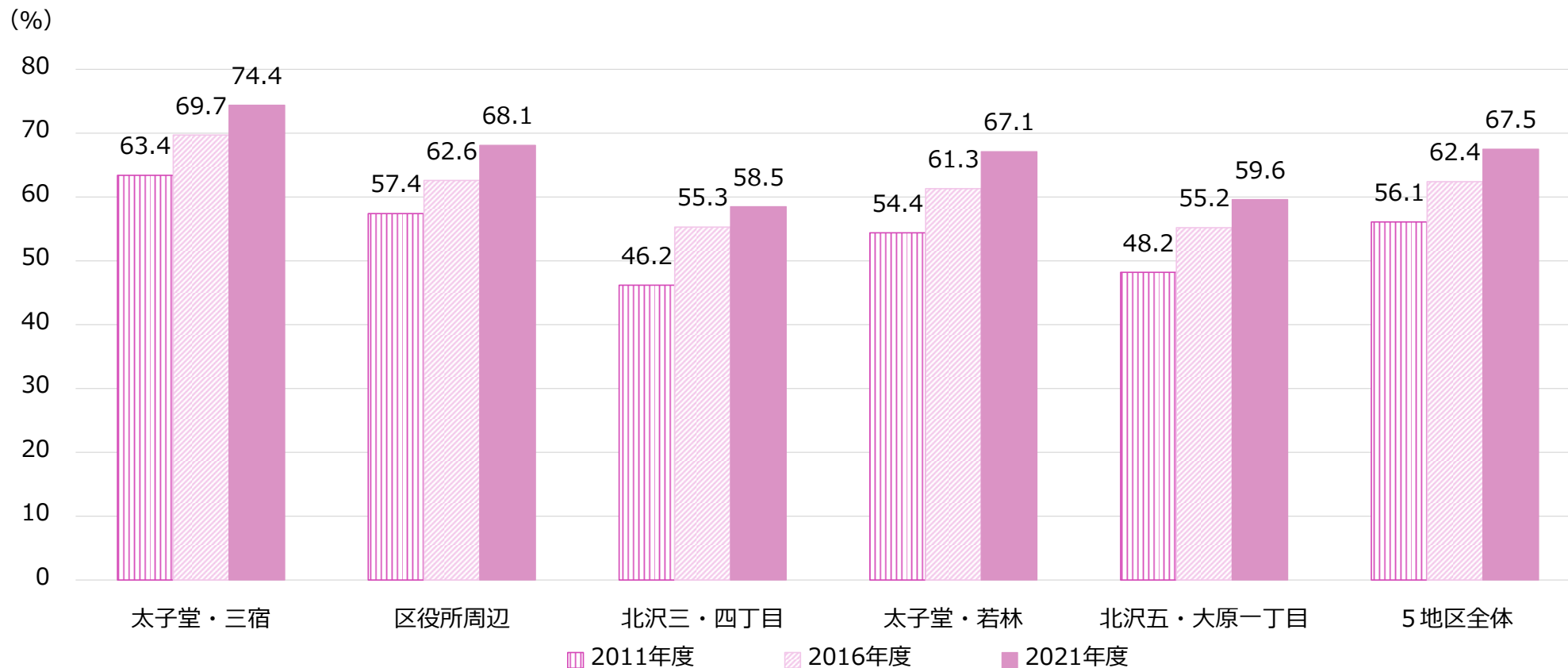
出典：世田谷区耐震改修促進計画

3. 都市基盤整備・産業・環境関連データ

世田谷区の不燃化特区の不燃領域率

区の不燃化特区の不燃領域率は、5地区いずれも上昇傾向にあり、5地区全体では2011年度に56.1%であったところ、2021年度には67.5%に増加しました。なお、太子堂・三宿地区については、2017年度末に延焼による焼失率がほぼゼロになるとされている不燃領域率70%を達成しています。

不燃化特区の不燃領域率



出典：世田谷区資料

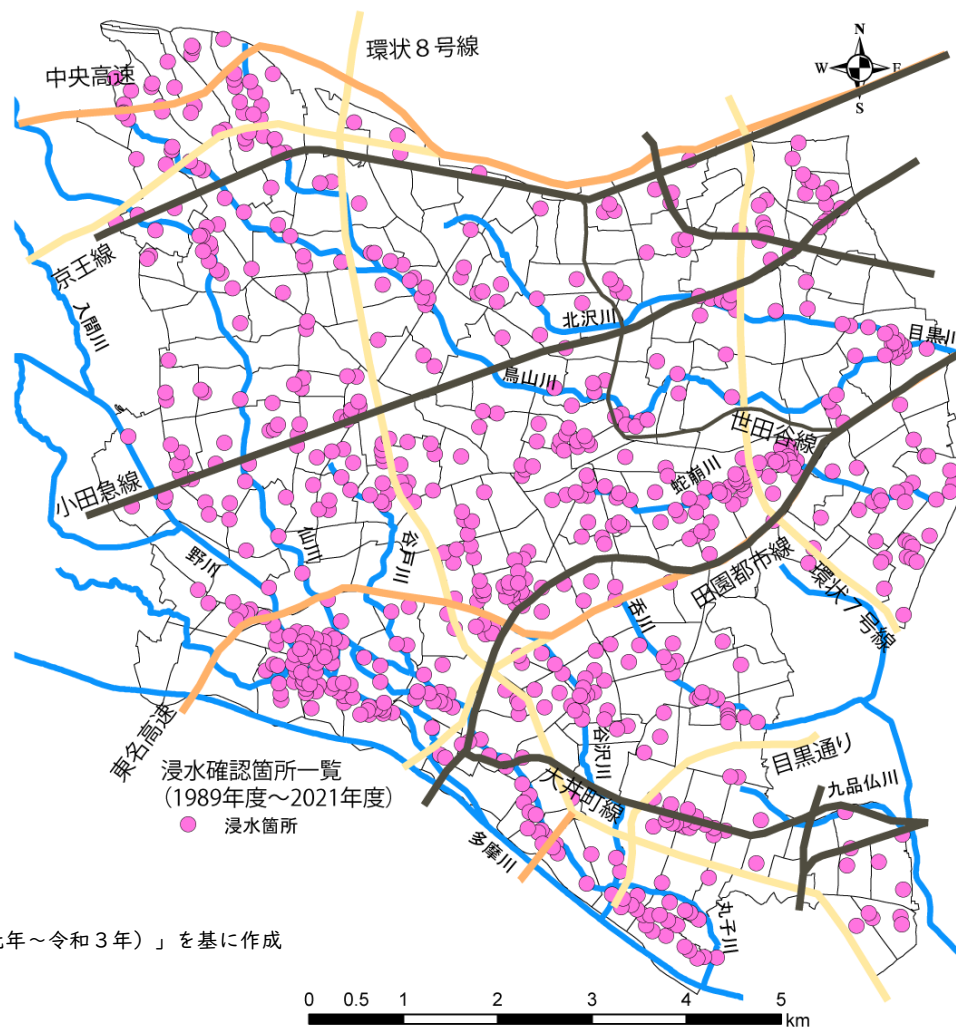
※東京都の「防災都市づくり推進計画」において、早期に防災性の向上を図るべき市街地である「重点整備地域」に指定された区内5地区において、不燃化特区制度を活用し、地区内の不燃化に取り組んでいる。

3. 都市基盤整備・産業・環境関連データ

世田谷区の浸水確認箇所

区の浸水確認箇所は、1989年度から2021年度までの間にのべ1,285箇所となっており、河川沿い（暗渠化されたものを含む）などでの発生がみられます。

浸水確認箇所図



※「浸水箇所一覧（平成元年～令和3年）」の被害住所を地図上に表示

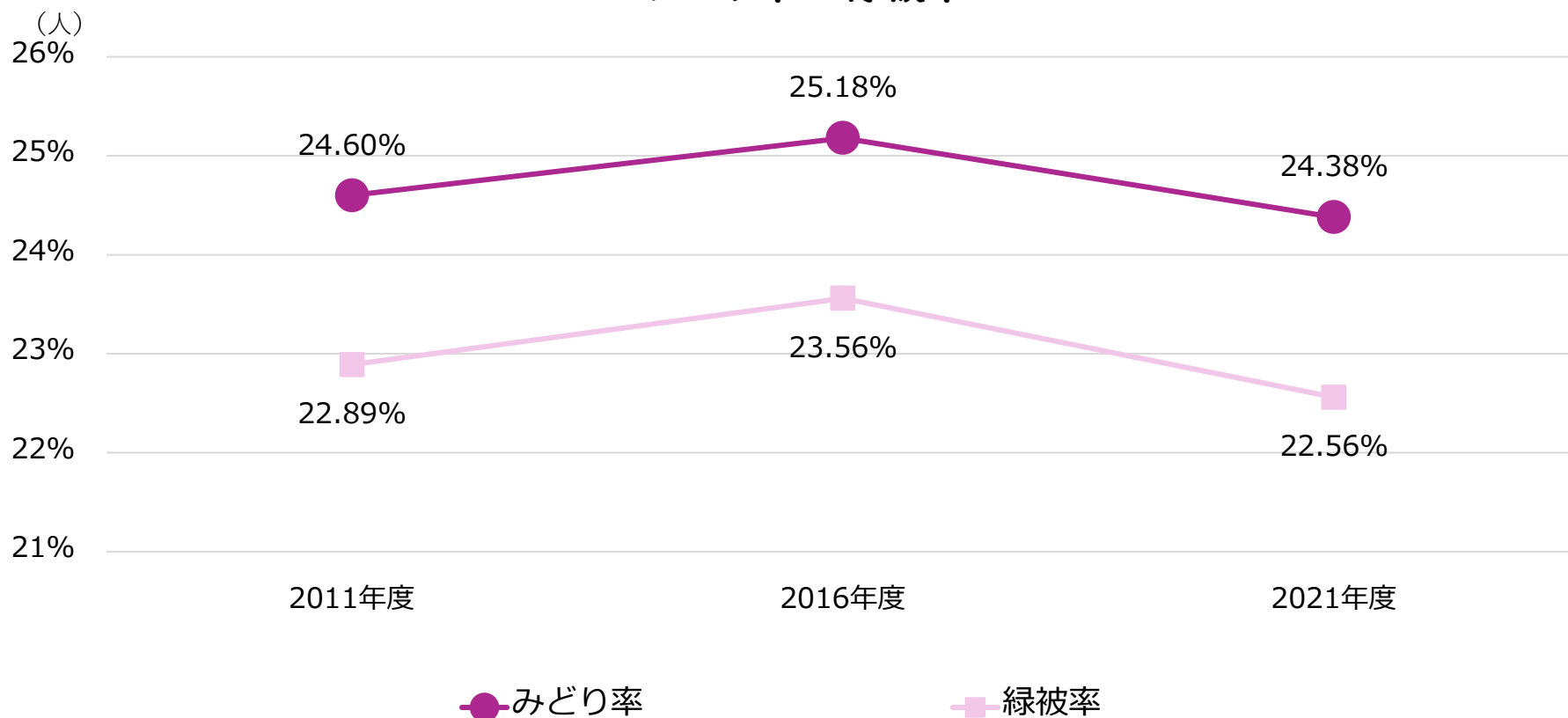
出典：世田谷区「浸水箇所一覧（平成元年～令和3年）」を基に作成

3. 都市基盤整備・産業・環境関連データ

世田谷区のみどり率・緑被率

区のみどり率は、2016年度に25.18%でしたが、2021年度には24.38%となり、0.80ポイント低下しました。
緑被率も同様に、2016年度に23.56%でしたが、2021年度には22.56%となり、1.00ポイント低下しました。

みどり率・緑被率



出典：世田谷区みどりの資源調査

※みどり率：緑被部分(*)に水面と公園内の緑被以外の部分を加えた面積が区の総面積に占める割合

※緑被率：緑被部分(*)が区の総面積に占める割合

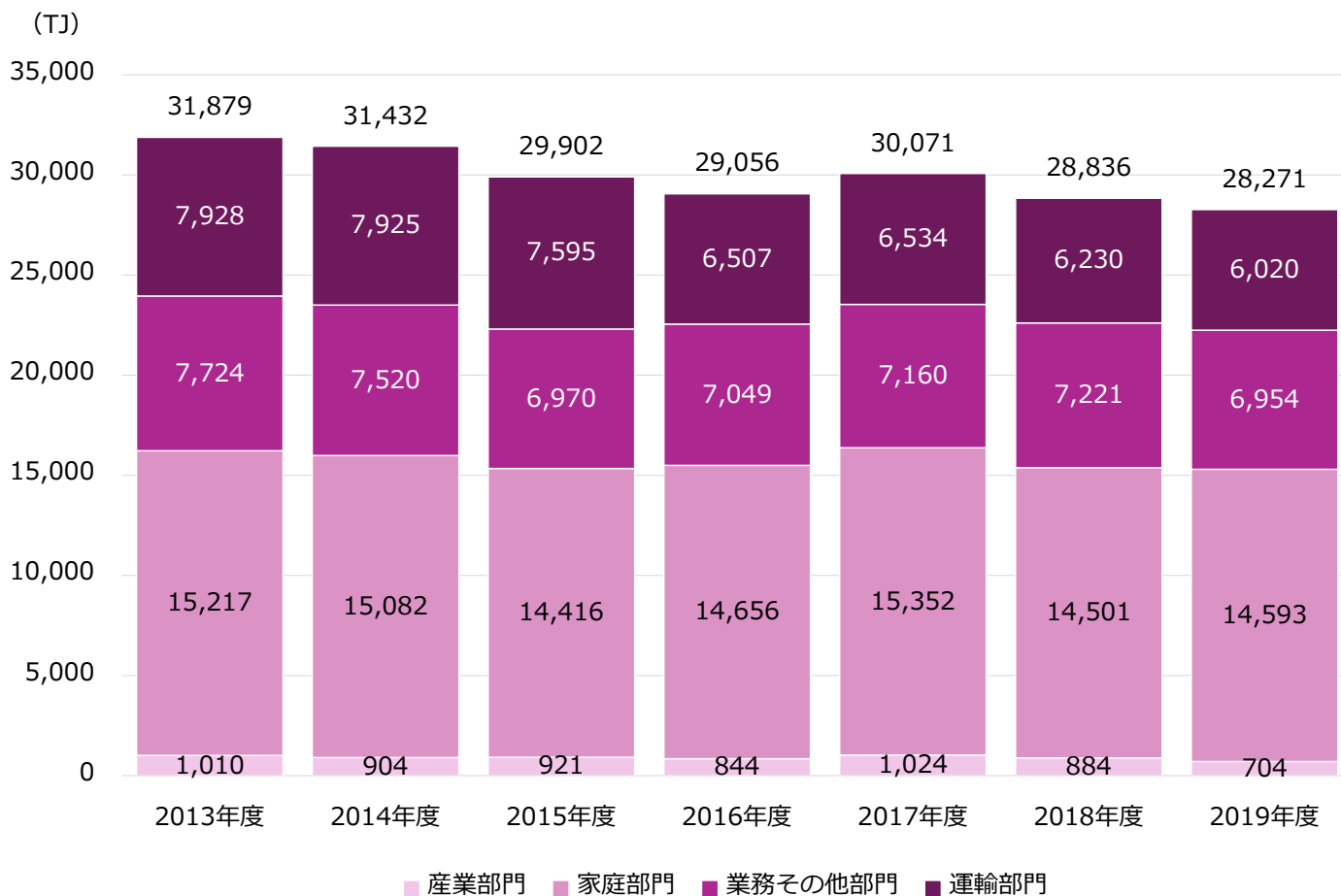
*緑被部分：上空から見たときに樹木、竹林、草地、農地などの緑が地表面を被う部分

3. 都市基盤整備・産業・環境関連データ

世田谷区のエネルギー消費量

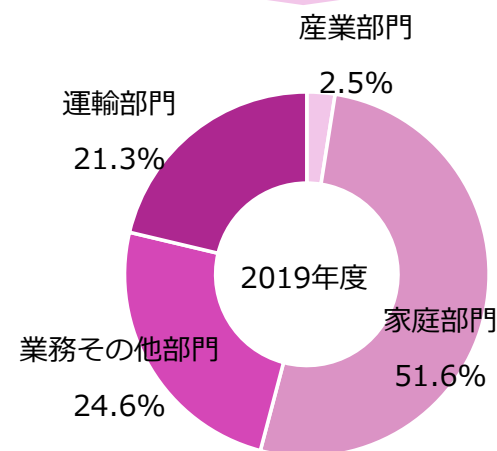
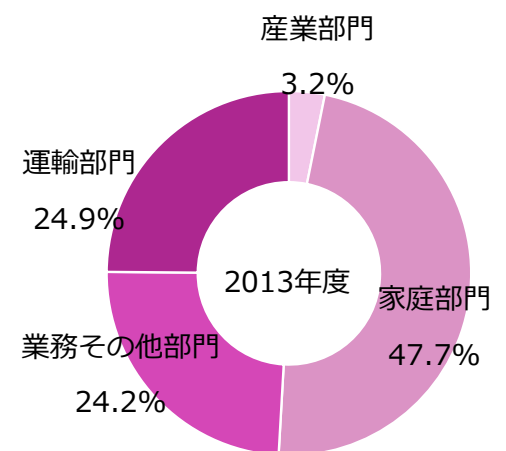
区のエネルギー消費量は2013年度から減少傾向にあり、2019年度には2013年度に比べ11.3%減少しました。また、2019年度の総エネルギー消費量に対する家庭部門が占める割合は、2013年度の47.7%から、2019年度に51.6%となり、約3.9ポイント上昇しています。

エネルギー消費量



出典：「オール東京62市区町村共同事業みどり東京・温暖化防止プロジェクト」を基に作成

エネルギー消費量部門別構成比



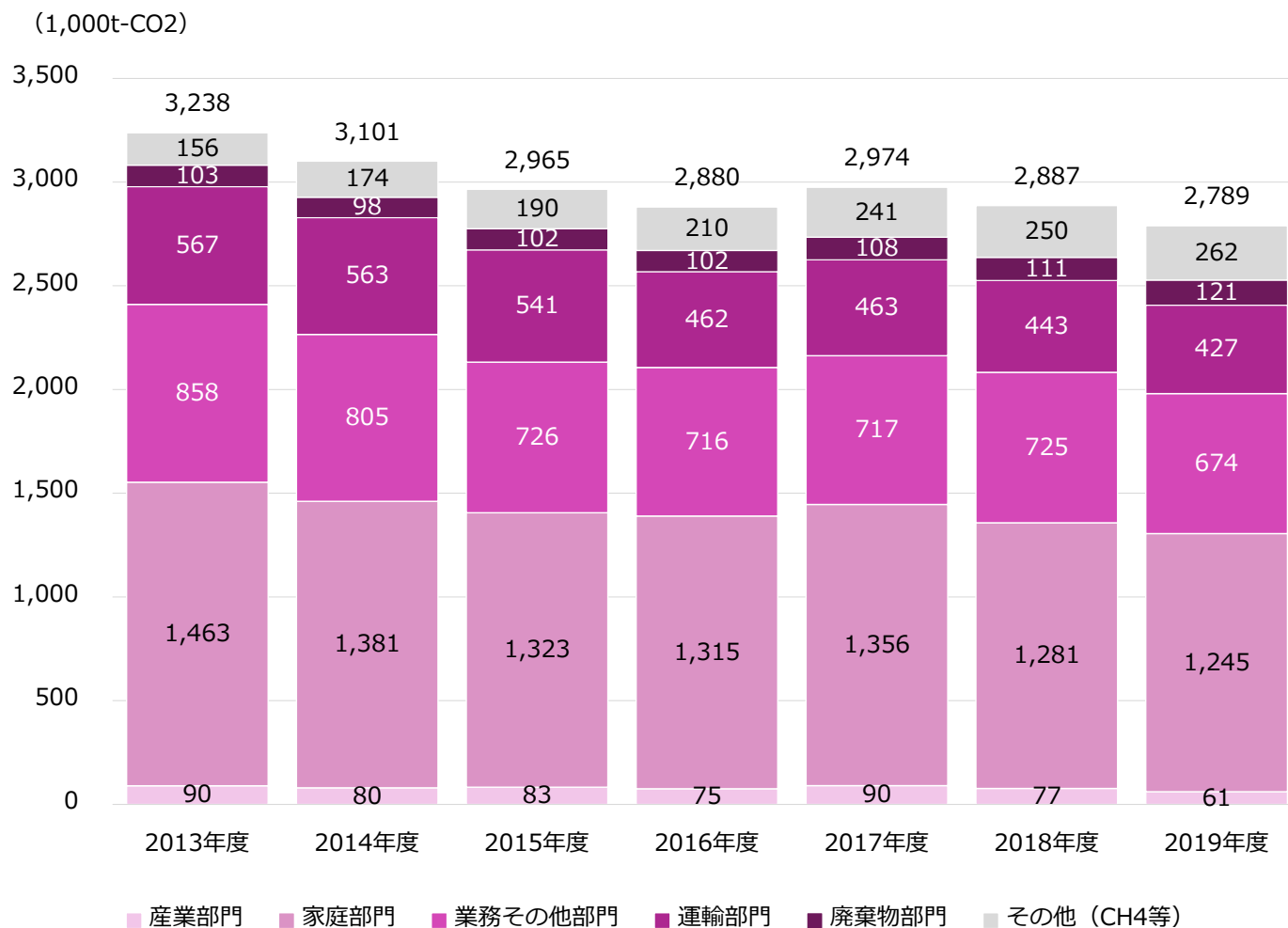
出典：「オール東京62市区町村共同事業みどり東京・温暖化防止プロジェクト」を基に作成

3. 都市基盤整備・産業・環境関連データ

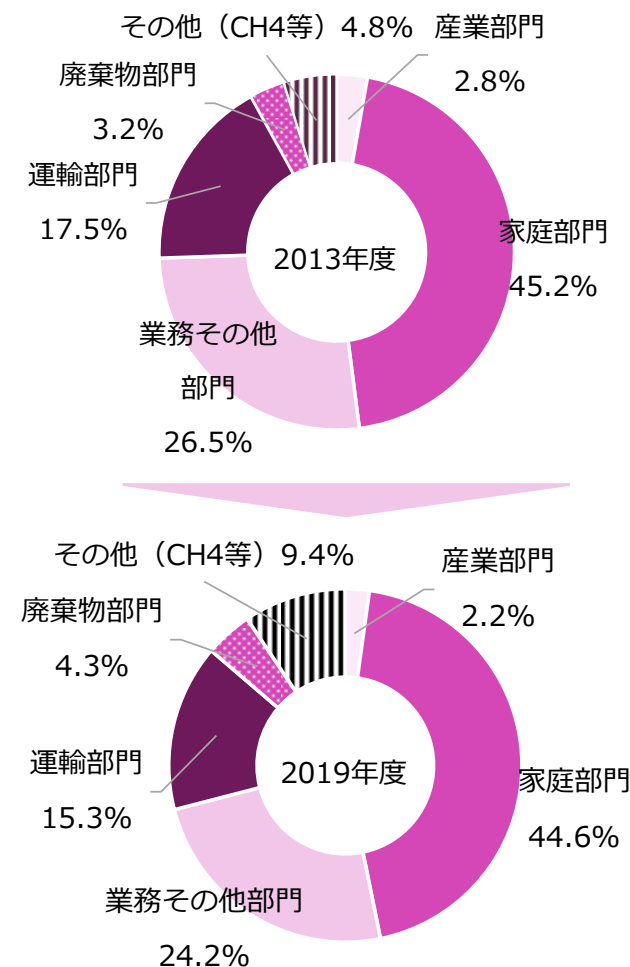
世田谷区の温室効果ガス排出量

区の温室効果ガス排出量は2013年度から減少傾向にあり、2019年度には2013年度に比べ13.8%減少しました。また、2019年度の総排出量に対する家庭部門が占める割合は、2013年度の45.2%から、2019年度に44.6%となり、約0.6ポイント低下しています。

温室効果ガス排出量



温室効果ガス排出量部門別構成比



出典：「オール東京62市区町村共同事業みどり東京・温暖化防止プロジェクト」を基に作成

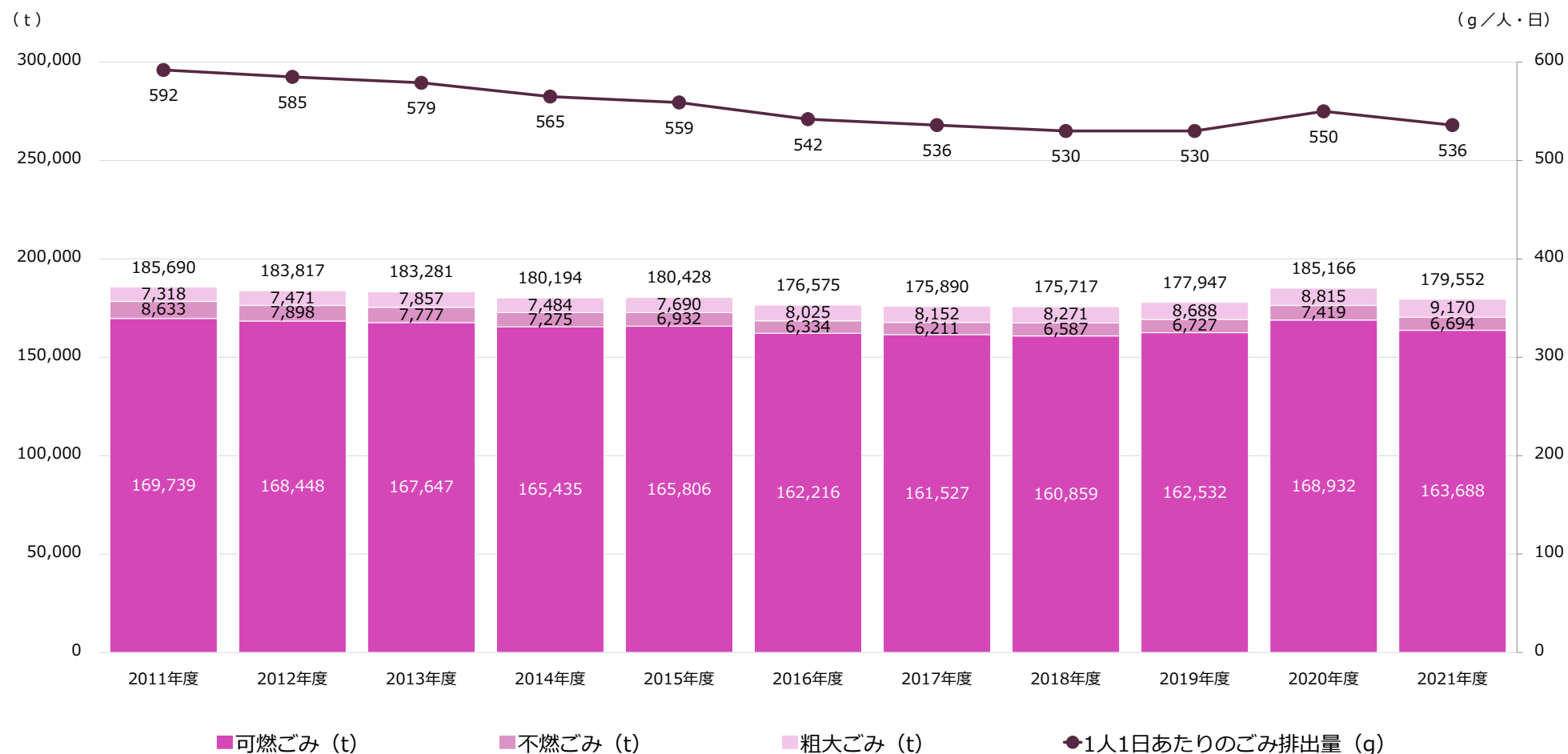
出典：「オール東京62市区町村共同事業みどり東京・温暖化防止プロジェクト」を基に作成

3. 都市基盤整備・産業・環境関連データ

世田谷区のごみ収集量・排出量

区のごみ収集量は2021年度は2011年度に比べ6,138トン減少しています。また、区民1人1日あたりのごみ排出量は、2011年度に592g／人・日でしたが、2021年度には536g／人・日となっており、1人1日あたり56g減少しています。

ごみ収集量と区民1人1日あたりごみ排出量

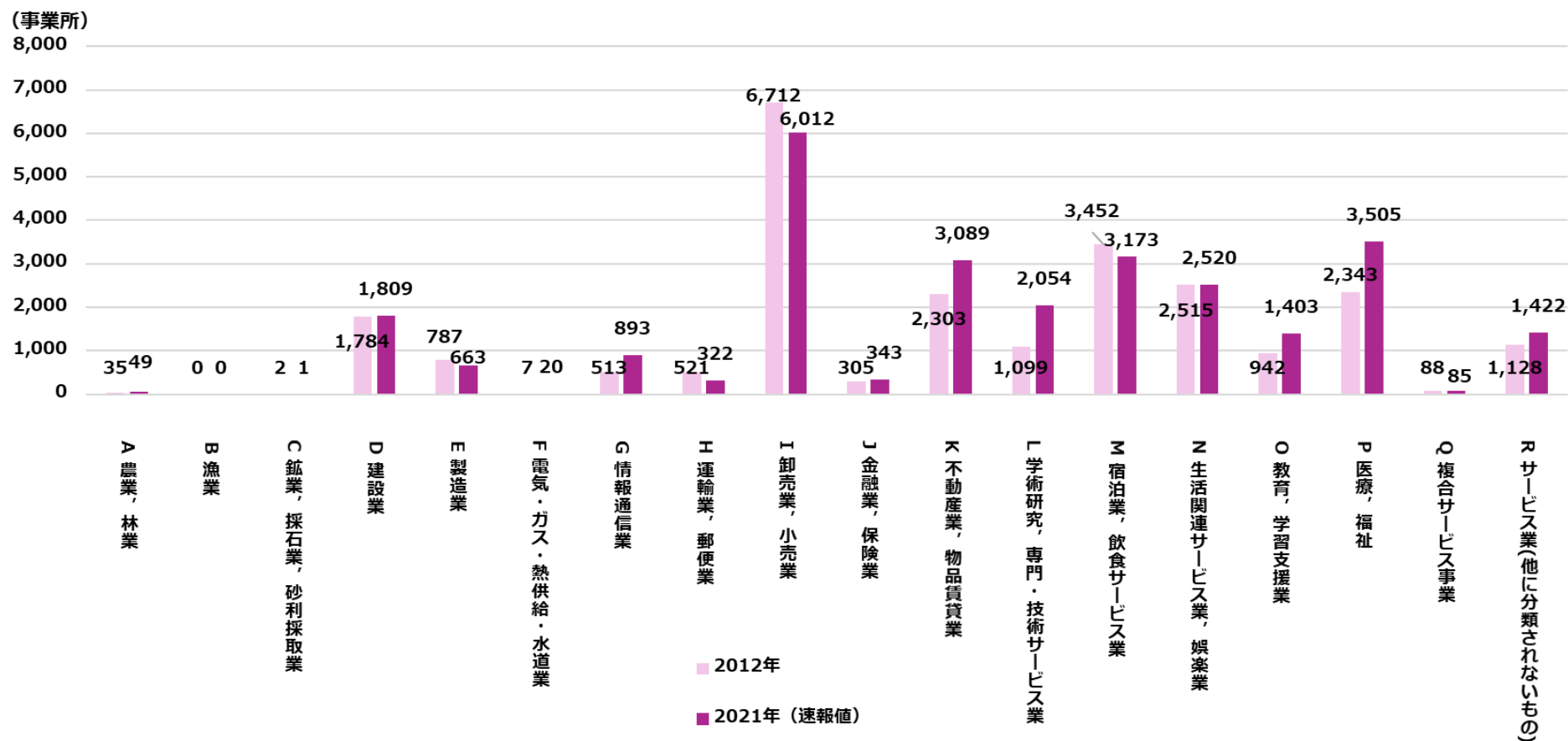


3. 都市基盤整備・産業・環境関連データ

世田谷区の種類別事業所数

区の2021年時点の総事業所数は27,363で、「卸売業、小売業」が6,012事業所で最も多く、次いで「医療、福祉」が3,505事業所となっています。

総事業所数：2012年 24,536事業所 ➤ 2021年（速報値） 27,363事業所



出典：経済センサス活動調査（2012年、2021年（速報値））を基に作成

※分類「公務」を除く。

3. 都市基盤整備・産業・環境関連データ

世田谷区民の業種別就業人数

区の2020年の総就業者数は393,362人で、「卸売業、小売業」「情報通信業」「医療、福祉」「学術研究、専門・技術サービス業」が多くなっています。

総就業者数： 2010年 394,885人 ➤ 2020年 393,362人

